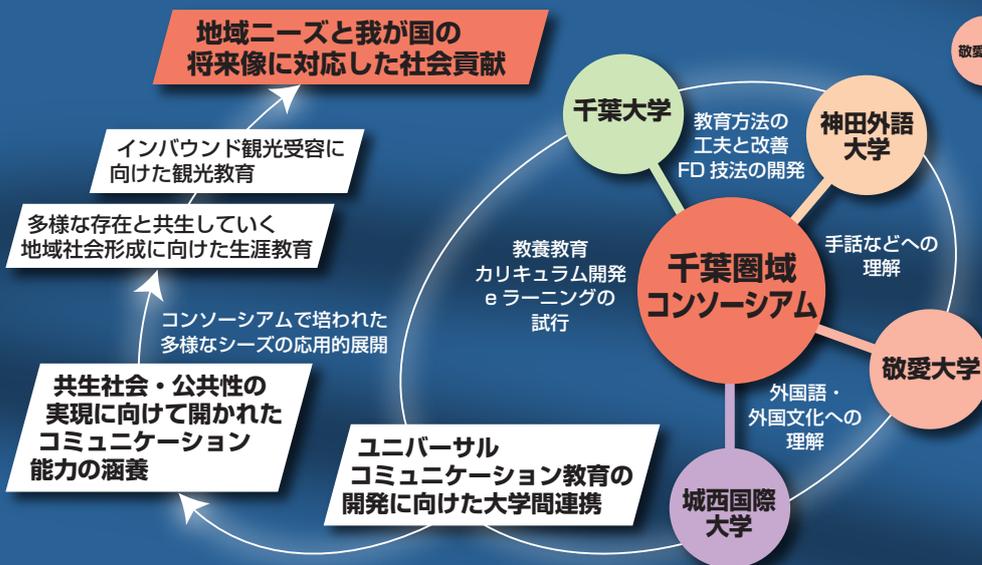


# 戦略的大学連携支援事業

# ユニバーサルコミュニケーションのための 教養教育に向けた千葉圏域コンソーシアム

2008年に採択されました戦略的大学連携支援事業「ユニバーサルコミュニケーションに向けた教養教育のための千葉圏域コンソーシアム」も早2年目半ばを過ぎ、折り返しの時期を迎えました。この間、本コンソーシアムでは、ユニバーサルコミュニケーション教養教育の実現のために、「教養教育カリキュラム開発」、「応用教育カリキュラム開発」、「教育の工夫と改善」を3本の柱として教養教育の改善に努めてまいりました。ここではこれまでの取り組み成果の一部をご紹介します。

## ユニバーサルコミュニケーションのための教育に向けた千葉圏域コンソーシアム



地域ニーズと我が国の  
将来像に対応した社会貢献

インバウンド観光受容に  
向けた観光教育

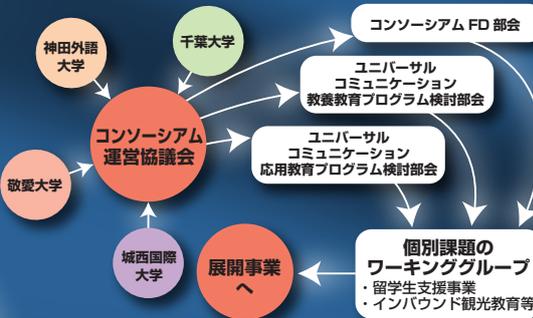
多様な存在と共生していく  
地域社会形成に向けた生涯教育

コンソーシアムで培われた  
多様なシーズの応用的展開

共生社会・公共性の  
実現に向けて開かれた  
コミュニケーション  
能力の涵養

ユニバーサル  
コミュニケーション教育の  
開発に向けた大学間連携

## コンソーシアム実施体制



## 教育方法の工夫と改善

### 理解度確認・効果測定

授業の進捗に合わせたリアルタイムでの理解度調査、簡易アンケート、小テストと、その受講者へのフィードバック機能を持つ Socratec システムを活用することによって授業改善技法の検討を行っています。この検討は、授業計画の弾力的な実施と受講者自身による理解度確認の試みを組み合わせることによる、理解度向上のための授業改善技法の開発を主な目的としています。

さらに教員の FD に関しても、簡易アンケート機能を中心に同システムの活用事例が、効果的な FD 実施方法に有用であるという点を確認しているため、FD 技法開発における活用を検討しています。(城西国際大学)



### 学習管理システム活用

千葉大学普遍教育センターでは、本年度よりオープンソースの学習管理システム「Moodle」を試験的に導入し、次年度からの本格運用を目指していますが、既に本年度前期より多くの先生方にご利用いただいております。

これを受けて、さらなる普及とより効果的活用のための学習会を行っています。千葉大学では、①試用された先生方による実践報告、②学生による Moodle 活用についての評価、③各学部・センター等において、実際にパソコンを操作しながら Moodle を習得していただく講習会を行っています。支援要員の派遣なども行い、現在急速に普及しています。

なお、各連携校でも同様の講習会が開催されており、毎回 Moodle に興味を持つ多くの先生方が参加されています。また、同様に学生向け講習会も開催し、学生のサポートも行っています。次年度以降には、コンソーシアム単位互換科目について、どの大学からの受講者も Moodle のコースを利用できるようにしたいと考えています。

千葉大学 Moodle 利用状況 (学部別)

学部	前期	後期	合計
普通	11	6	17
文	1	1	2
教育	1	1	2
法経	3	7	10
理	2	3	5
医	0	0	0
薬	0	0	0
看護	0	2	2
工	9	3	12
園芸	4	4	8
国際	0	1	1

11/15 現在  
コース数: 67  
前期: 37 後期: 30

## 教養教育カリキュラム開発

### 単位互換

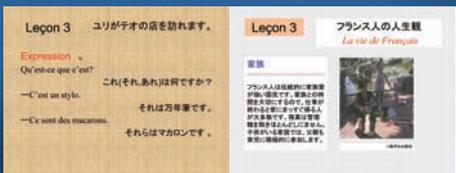
2009年3月、千葉大学と神田外国語大学、敬愛大学、城西国際大学の間で単位互換協定が結ばれました。2009年後期から、4大学間で、単位互換授業が開講されています。



コンソーシアム単位互換協定協定調印式の様子  
左から: 千葉大学学長(城西国際大学)、井修平(城西国際大学)、敬愛大学学長(千葉大学)、神田外国語大学学長(城西国際大学)

### eラーニングコンテンツ

- ①「新たに学ぶ外国語と異文化理解へのいざない」のために開講される「トライ・外国語科目」のための eラーニング教材を開発し、コンソーシアムにおいて共有化します。(神田外国語大学)
- ②留学生への日本語教育を目的とした eラーニングコンテンツを開発し、教材のモジュール化・再利用による効率化を行います。(敬愛大学)
- ③異文化理解のための「海外スクーリング」を中心に、より深い学習を可能とするための eラーニングコンテンツを開発します。(敬愛大学)



### 視聴覚教材活用法

- ①語学学習動機付け教材として、生活・文化・言語を総合的に学ぶための eラーニングコンテンツを制作し、さらにその活用と改善技法を開発します。(千葉大学)
- ②携帯語学学習端末 (iPod) の、より効果的な活用方法を開発するための試行を行っています。(千葉大学)

## 応用教育カリキュラム開発

### バリアフリー・コミュニケーション教育

千葉県の協力により、障がい者支援ボランティアの養成・ボランティアへの意識・意欲の向上のため、「バリアフリー・コミュニケーション入門」を企画・実施しました。偏見や差別を克服し、ともに生活し、参加し、平等な情報を得ることの意味について考えながら、日常的な接し方や手話・筆記の初歩までを修得します。(千葉大学)

### 手話への取り組み

千葉聴覚障害者センターより講師の派遣を受け、手話の技術的指導を受けるとともに聴覚障がいに対する理解とコミュニケーション能力の向上を図っています。その成果を生かし、課外の手話勉強会や「手話コース」の活動を通じて、手話の理解と普及に取り組んでいます。また、教養教育プログラムに向けたコンテンツ作成を試行しており、ビデオ撮影等のテストも行っています。(城西国際大学)

